発刊のあいさつ

浦添市教育委員会　教育長　宮城　清

浦添市教育委員会は、一九八七年度（昭和六十二年度）より「琉球王国評定所文書」刊行事業を開始し、以後順調に当事業を推進しております。琉球王国近世史の研究にとって大変貴重な史料であり、既刊は県内外にとどまらず、海外においても、琉球王国史の研究に活用されております。

浦添市は古流球以来の歴史・文化の伝統をふまえ、「太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市」「教育の進展、文化の高揚をめざす都市づくり」を目指しております。古代の祭祀歌謡集『おもろさうし』にも「うらおそい」と謡われた当市は、かつての王都として栄えた時代の理想を胸に、市民の誇りと自信を培い、文化の創造と発展に寄与することを目的に、今後も市の文化事業の一環として「琉球王国評定所文書」刊行事業を推進してまいります。

今年度刊行の「琉球王国評定所文書」第十五巻には、内務省作成「旧琉球藩評定所書類目録」の通し番号で、一五八七号・一五九八号・一六〇五号・一六〇六号・一六八六号、以上の五つの文書を収録いたしました。一五八七号文書「奥州人七人宮古島ゟ漂着破船那覇ゟ送来候付界抱日記」（咸豊九年）は、「沖縄県史料」前近代5漂着関係記録（一九八七年）にすでに収録されておりますが、他文書との関連もあって、今回あらたに収録いたします。琉球に滞在していたフランス人神父たちに関する記録である一五九八号文書「仏人逗留ニ付那覇ニゟ之日記」（咸豊十年）は、既刊分に収録された逗留仏人関係史料の続編です。千六百五号「日記総目録」（咸豊元年～十一年）は、一八五一年から

一八六一年の十一年間にわたる膨大な史料です。他に「産物方日記」（咸豊十年～十一年）と「両先島在番往復」（同治四年～八年）という興味深い史料が収録されております。これらの史料が多くの市民をはじめ、県内外、海外の研究者の間で活用されることを願います。

最後に、本事業のために貴重な史料を提供し、また、刊行について御快諾下さいました、東京大学法学部法制史資料室ならびに国立公文書館の関係各位、また史料の筆耕解読にご協力下さいました研究者各位に深く感謝申し上げ、発刊の言葉といたします。

二〇〇〇年（平成十二年）三月吉日